

# 「漢字」「語彙」「文や文章」に関する内容の確実な定着を図るための指導方法を改善しましょう。

小学校では、今年度も、漢字や文法等「言葉の特徴や使い方」に関する知識・技能の定着に大きな課題が見られました。これまでの指導方法を改善し、確実な定着を図ることが必要です。

## 「なぜ?」「どうすれば?」を解決し、課題を克服!

漢字ドリルで繰り返し練習させていますが、なぜ身に付かないのでしょうか。	指導改善①
漢字ドリルの学習以外にどのような学習をすると効果的ですか。	
言葉の特徴や使い方に関する単元の学習では確実に理解させていますが、なぜ身に付かないのでしょうか。	指導改善②
[知識及び技能]と[思考力、判断力、表現力等]を相互に関連付けるとは、どういうことでしょうか。	

### 指導改善①

繰り返しドリル学習を行うだけだったり、小単元で指導を完結したりしていませんか?

#### ポイント

「知識及び技能」が定着していない状況において、「思考力、判断力、表現力等」を高めることは難しいです。「知識及び技能」を確実に定着させるため、以下の指導例を参考にしましょう。

#### I 漢字の学習を丁寧に行う

- ・新出漢字の学習の際は、一字ずつの意味や他の読み方を確認したり、その他の語句を例示したりするなど、丁寧に行いましょう。

本文に出てくる「期限」の「限」は、「限る」とも読み、範囲を区切るという意味です。「限」を使った他の言葉の一つ探しましょう。

R1 指導改善  
資料参照



- ・辞書や教科書、本などを使って、新出漢字を使った言葉集めをしましょう。



先生 「残る」の「残」という漢字を使った言葉を集め、意味を調べましょう。

※漢字を確実に読んだり書いたりできるようにするとともに、語句の量を増すことや語句のまとまり、関係、構成などの理解を図る指導に努めましょう。

#### II 帯時間を工夫し継続して指導する

- ・学習する単元にかかわって、語句を集めるなど、語彙を豊かにする指導を日常的に継続しましょう。
- ・次のような学習を授業の冒頭に行うと、[思考力、判断力、表現力等]のC読むことの指導につながります。

【例：第2学年「お手紙」】  
「言葉を言い換える」

先生

「がまくんが言いました」という文があります。  
「言いました」を他の言葉に言い換えるとどんな文になりますか。

がまくんは声をかけました

児童

がまくんはそっとつぶやきました

がまくんはやさしく伝えました

※様子や行動、気持ちや性格を表す語句を集める学習を授業の冒頭に継続して行うと、[知識及び技能]の定着や語彙の習得につながります。

#### III 個に合った問題に取り組ませる

- ・「ぎふっこ学び応援サイト」に、「ことば博士コーナー」を開設します。タブレットを使って、主体的に問題に取り組むことができるようにしましょう。

ぎふっこ学び応援サイト

主語と述語「だれ(何)が どうする」②  
次の文の主語として適切なものを一つ選びましょう。  
あの公園はさく年かん成した

ア あの公園は  
イ さく年かん成した  
ウ さく年かん成した  
エ さく年かん成した

主語と述語「だれ(何)が どうする」②  
答えをかくにんしましょう。

あの公園はさく年かん成した

ア あの公園は「やさしく」にあたる主語  
イ 「静かに」にあたる主語  
ウ 「かん成した」をより詳しくする主語  
エ 「かん成した」「どうする」にあたる述語  
「かん成した」のほかに何かを調べましょう。

※個々の学習進度に合わせて問題を選択して取り組むことができます。授業の冒頭や帯時間、家庭学習などにおいて、活用することができます。

#### 「国語の勉強が好き」と感じられる瞬間とは?

「国語の勉強が好き」と感じられる瞬間の一つが、「なるほど・やっぱり・前よりも・次の学習でも」といった思いをもつことができたときです。そんな思いを抱くことができるよう、まずは、指導例を参考に、漢字や言葉の知識、語彙の習得や活用の場の指導を工夫していきましょう。



なるほど、この言葉を使うと文がつながる。

前よりも、漢字をたくさん書けるようになった。

やっぱり、この言葉は気持ちを表している。

次の学習でも、言葉をたくさん集めたい。

言葉の  
習得・活用  
の実感を!

## 指導改善②

〔知識及び技能〕の内容と〔思考力、判断力、表現力等〕の内容を関連付けて指導していますか。

### ポイント

思考、判断、表現することを通して、「知識及び技能」に示された内容の定着を図るようにします。

例：第5学年 読み手が納得する意見文を書こう「あなたは、どう考える」

表現や構成の工夫を考える学習を通して、単元で身に付ける〔知識及び技能〕(1)オ「語彙」・カ「文や文章」の定着を図る。

### ポイント

例文等から表現や構成の工夫を考える際に、文末表現や接続する語句などに着目させることで、〔知識及び技能〕(1)オ・カの定着を図ることができます。

先生

この文章を読んで、読み手に分かりやすく伝えるために工夫していることを考えてみましょう。

事実は「である」、考えは「だろう」と、文末表現を変えている。事実と考えの違いが分かる。

児童



「例えば」という言葉を使って具体例を出している。事実が分かりやすくなる。

文章を整える学習を通して、既習の〔知識及び技能〕(1)エ「漢字」・カ「文や文章」の定着を図る。

### ポイント

文章を整える際に、漢字や言葉の使い方等、既習の〔知識及び技能〕を活用して見直すことで、確実な定着につながります。

先生

読み手に分かりやすく伝わるように、文章を読み返して漢字や言葉の関係、使い方などを確認しましょう。

この漢字は送り仮名が違っているから直そう。この言葉はどの言葉を詳しくしているのか分かりにくいので、言葉の順番を入れ替えてみよう。

児童



「でも」が何回も続いておかしい。文のつながりが分かるように、接続する言葉でもっとよい言葉はないか。

## 自校結果の分析・指導改善

調査結果を踏まえ、これまでの指導の成果と課題を明らかにしましょう。その上で、課題の要因を考察し、今後の指導方法を具体的に考えましょう。

### 1 【分析】：自校児童の実態

成果

課題

### 2 【考察】：課題の要因として考えられること（指導・実態）

### 3 【指導改善】：今後の具体的な指導